

新院長、副院長 就任の挨拶

2022年10月1日付で、青森新都市病院の院長に末綱太先生、副院長に鄭健錫先生、西隆先生が就任いたします。前・総長兼院長の片山容一先生は同日付で総長・事業管理者として引き続き病院の運営に携わってまいります。どうぞよろしくようお願い申し上げます。

【総長】 片山容一（前・総長兼院長）
【院長】 末綱太（前・副院長）
【副院長】 鄭健錫、西隆



すえつな とし
院長 末綱太
整形外科部長
(脊椎脊髄センター長)

医療法人雄心会は、昭和62年函館に函館新都市病院を設立し、そして平成29年5月に青森の西地区に、姉妹病院として当院青森新都市病院を開設しました。青森市の2次救急病院として、令和4年の5月で6年目を迎えることができました。

青森新都市病院は、開設当時から、24時間体制の救急医療及び脳疾患の治療に取り組み、実績をあげてまいりました。がん治療においても、外科的手術に加え、化学療法、最先端の放射線治療を含めた集学的治療を実施しています。また、社会生活復帰を目指す上で非常に重要なリハビリテーションでは、経頭蓋磁気刺激装置等を用いた新たな治療も取り入れ効果をあげ、在宅医療までのシームレスな医療を実践しております。さらに、健康寿命に大きな影響を与える要介護の原因となる認知症、骨折や脊椎疾患の治療に対しても力を注いでいます。そして、患者さんの背景を認識しながら多角的に診療を行うことができる総合診療科も新設され、各科の連携も一段とスムーズになりました。

病院という組織の中で、個人の成長は各部署の成長に繋がり、各部署の成長はひいては病院の成長に繋がってくると考えています。その意味でも、組織の中で一番大事なものは『人』であります。スタッフの相互理解を大切に、つながりのある組織を目指し、当院もゆっくりと成長していければと考えています。

当院は、職員一人一人が、患者さんの回復に向けた医療チームのメンバーであることを意識し、患者さんに安心、安全な医療を提供し、地域の皆様に信頼される病院でありたいと思います。

今後とも、ご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



てい けんしゃく
副院長 鄭健錫
リハビリテーション科部長
(リハビリテーションセンター長)

令和4年10月1日付けで副院長を拝命いたしました。リハビリテーション科専門医としてリハビリテーション医療の実践をこれまで行ってきましたが、加えて今後は末綱院長の下で当院の役割である青森市西部地域を中心とした救急医療をはじめ総合病院としての医療体制の質の向上や地域の方々に安心・安全で良質な医療を提供できるようにチーム医療のさらなる向上を目標に職務に努めていきたいと思っております。

また病院の運用には、国家資格を持つ多職種の医療スタッフに加えて多くの専門知識を持つスタッフに支えられて成り立っています。病院機能の維持・向上にはスタッフの個々の専門的スキル向上だけでなく、チーム医療としての成熟度、病院として医療を通しての地域・社会への貢献が重要な要素となります。この担い手であるスタッフがやりがいを感じながら継続して職務に従事できるように職場環境の整備や方策も重要であり、その一助になればとの思いで努力してまいります。



にし たかし
副院長 西隆
乳腺外科・甲状腺外科部長
(乳腺医療センター長・手術センター長)

この度、10月1日付けで副院長職を拝命しました、乳腺・甲状腺外科の西です。ここに紙面を借りてご挨拶申し上げます。よろしくお願い致します。

平成30年4月より同科の部長として診療に携わって参りました。主に乳がん・甲状腺がんといった悪性腫瘍の診療を専門とし、検診から診断・治療（手術、抗がん剤治療など）を行っています。これまでに外来新患者数は約1500名、手術件数（全身麻酔）は約370件（乳がん255件、甲状腺がん115件）を経験させていただきました。2人に1人ががんにかかる様になった昨今、がん診療の重要性が増してきています。地域の皆様のご期待に添える病院を目指してこれからも努力して参ります。ご支援のほど、よろしくお願い致します。